

平成31年に特に注意を要する病害虫

りんごの黒星病



黒星病（葉の病斑）

黒星病（果実の病斑）

近年りんごの黒星病が多発傾向です。春季の一次伝染源も多いと推測されますので、初期の防除時期を逸さないように気をつけましょう。薬剤防除においては、散布間隔の開きすぎに注意し、希釈濃度、散布水量を守って適切な防除を実施しましょう。また、特定系統の薬剤のみに頼らず、複数系統の薬剤を用いたローテーション散布を心がけましょう。

りんごの腐らん病



腐らん病（左：胴ふらん 右：枝腐らん）

腐らん病対策では、樹勢を維持するための基本管理が最も重要です。H30年には、台風等で樹体が損傷を受けていると推測されることから、一層の注意が必要です。腐らん病に罹病した部位は年間を通して伝染源となります。早期発見に努め、り病部を削り取り園外で処分するといった基本対策を確実に実施しましょう。

新たに発生が確認された病害虫

トルコギキョウのべと病 （新称・国内新発生）



株が黄化し、葉に灰色のかびが密生します。葉の奇形や茎の曲がりも生じます。

たまねぎの黒腐菌核病 （道内新発生）



生育不良や立ち枯れ症状を起こし、鱗茎部に黒色の菌核ができます。低温で発病しやすい病害です。

カーランツの ブドウワタカイガラムシ （道内新発生）



白い綿状の卵のうを伴うカイガラムシです。バラ科果樹やブドウでも発生するため、注意が必要です。

小麦のなまぐさ黒穂病 （病原の追加）

近年、北海道で発生しているなまぐさ黒穂病菌は、これまで小麦で報告のなかった、*Tilletia controversa*であることがわかりました。この菌は土壌伝染することが知られています。

てんさいの黄化病 （病名の変更・病原の変更）

近年、北海道で発生していた西部萎黄病の病原ウイルスは、過去に報告されていたウイルスとは異なることがわかりました。新たな病名としてテンサイ黄化病、病原ウイルス名としてBeet leaf yellowing virus（ビート黄葉ウイルス）が提案されました。

平成30年度にはこの他に7病害虫の発生が報告されています。

連絡先 Contact

注意を要する病害虫の詳細は、北海道病害虫防除所のホームページでご確認ください

中央農業試験場
病虫部 予察診断グループ
0123-89-2001
Central-agri@hro.or.jp